

お施主様用の取り扱いマニュアルを添付してありますので必ずお施主様にお渡しください。

# 施工説明書

ワックス不要

## マンション用直貼防音床材（床暖房対応）ダイヤモンドフロー<sup>®</sup>44

この度は、弊社商品をご採用いただき、誠にありがとうございます。施工の際は、商品の特性を充分生かし、安全に美しく仕上げるために、本説明書をよく読み、手順通りに正しく施工してください。この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で事故や不具合が生じた場合は、保証致しかねますのでご注意ください。

### 必ずお守りいただきたいこと



- (1) 本製品は住宅用の上履き用です。施設・店舗などの重歩行用には使用できません。  
また、施工距離が長くなる場合、湿気による伸び・波打ち・突き上げ等が発生する事があります。  
見切り材等を施し、フロアとの隙間を十分確保してください。
- (2) コンクリート下地（スラブ厚150mm以上）、合板下地床（合板12mm厚以上）が必要です。根太貼り施工はできません。
- (3) 施工は直貼りの接着工法です。釘は使用しないでください。床暖房仕上げ材として使用する場合、誤って床暖房パネルに釘を打つと水漏れやトラブルの原因となります。（施工には専用接着剤をご使用ください。）
- (4) 床暖房パネル施工は、床暖房パネルメーカー施工説明書の注意を守って使用してください。パネルの浮き、段差、床鳴りが無いことを確認の上、パネルを傷つけないようフロアを施工してください。
- (5) モルタルもしくはセルフレベルング材が、十分に乾燥してからフロアを施工してください。（打設後4週間以上）目安としては、同一打設時期で最も乾燥しにくいと思われる部分の下地表面を選定し、1m×1m程度のポリシートの四周を布テープ（ガムテープ）止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後下地材面が黒くならない程度です。乾燥が不十分な場合、床材の床鳴り、突き上げ、波打ちなど不具合の原因となります。  
また、接着不良の原因となりますので、細かいホコリや砂は掃除機で清掃してください。粉ふきの多い場合は必要に応じてセルフレベルング材メーカーに善後処置を指示してください。
- (6) ALC（軽量気泡コンクリート）下地は表面がもろく吸湿性が大きいので使用しないでください。
- (7) 下地は必ず下記の不陸に納まるよう調整してください。踏み鳴りや接着不良の原因となります。
  - ① ゆるやかな起伏で凹凸が1mにつき3mm以内。
  - ② 部分的な凹部で深さが3mm以内、大きさが100cm<sup>2</sup>以内。  
合板下地の場合は、合板の継ぎ目の段差が1mm以下となるようサンディング（研磨）等してください。
- (8) 施工後にフロアが湿気を吸収して伸びや突き上げを起こすことがありますので、施工前日にフロアを開梱して、現場の環境にフロアをなじませてください。
- (9) 合板下地の場合は水濡れなどが無いことを確認してください。（木材平衡含水12%以内）
- (10) クッションフロア、直貼フロアの上には施工しないでください。また二重床用の仕上げ材としてはご使用になれません。

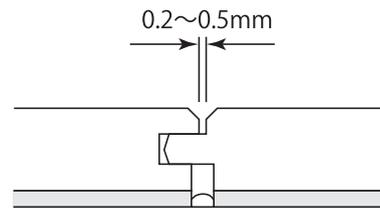
### ⚠ 施工の注意

- 本製品はフロアの短辺ジョイント部に0.2mm程度の間隙を設ける製品設計としています。フロア同士の突き付けは軽く行ってください。足で蹴りこんだり、ゴムハンマーで無理に叩き込むと突き上げの原因となります。
- コンクリート直埋式ヒーター方式には使用できません。コンクリートの水分や成分がフロアの品質を阻害する恐れがあります。
- 施工前後は十分に換気を行ってください。閉め切ったままの状態で室内の湿気が上がると、フロアの伸び、突き上げの原因となります。

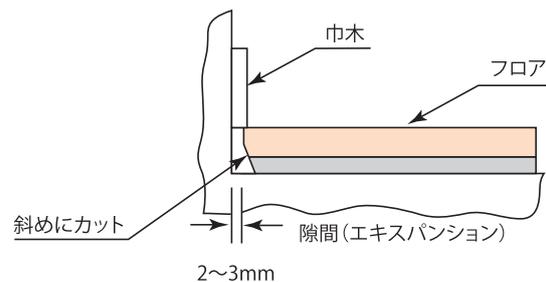
## 突き上がりに関する施工上のご注意とお願い

**1** フローアが湿気を吸収して伸びや突き上がりを起こすことがありますので、施工前日に床材を開梱して、現場の環境に床材をなじませてから使用してください。

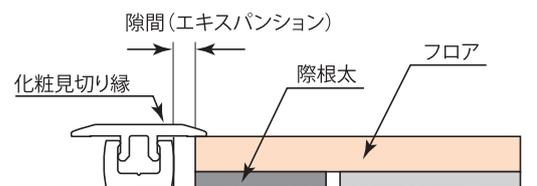
**2** フローア短辺ジョイント部の突き合せは、フローアの伸びを考慮して**突き上がり防止のため名刺1枚分程度の隙間**をとり、強く叩き込まないようにしてください。  
(名刺1枚分の隙間0.2~0.5mm目安)



**3** 壁際部は巾木を後付けとし、フローアの伸びを考慮して**巾木の厚みで隠れる程度**の隙間を必ず設けてください。



**4** フローアの施工距離が長い場合(廊下・リビング・公共施設等)、湿気によりフローアが伸び、波打ち・突き上がり等が起こる場合があります。フローアの伸び対策として、**縦継ぎ10枚を限度**とし、それ以上になる場合は**弊社化粧見切り縁**等を施し、**フローアとの隙間を十分確保**してください。



注) 寸法変化に対応するため、**際根太上部とフローアは接着しない**

**5** 玄関框とリビング入り口等の敷居のように、どちらも**突き付けにて施工**されますと湿気によりフローアが伸び、波打ち・突き上がり等が起こりやすくなります。フローアの伸び対策として、**リビング敷居にシャクリ加工(カブセ見切り等)**を施し、**フローアとの隙間(エキスパンション)**を十分確保してください。

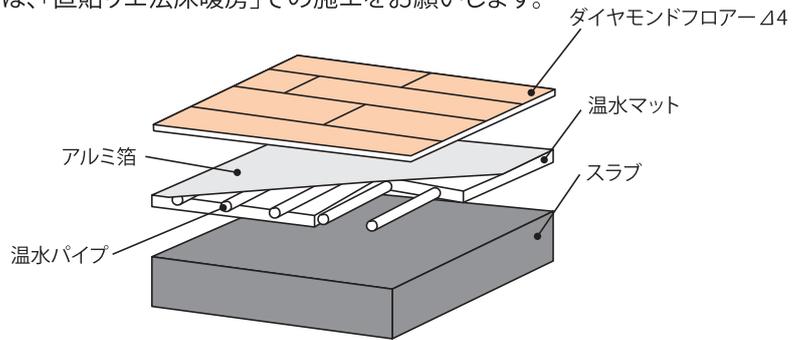
## 床暖房仕様についてのご注意とお願い

### 施工について

- 床暖房の仕上げ材としてご使用される場合は、「直貼り工法床暖房」での施工をお願いします。

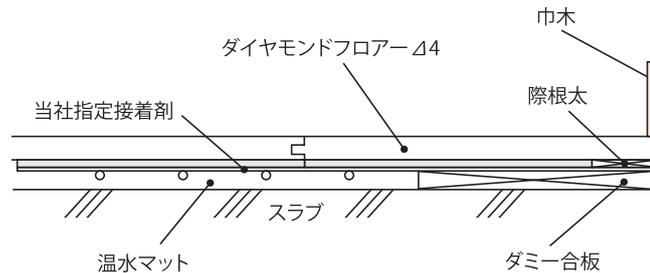
#### 「直貼り工法床暖房」

フローリング材そのものに防音効果をもたせることで、スラブに直接、温水マットとフローリングを貼る工法。



直貼り工法床暖房 集合住宅用

<ガス会社推奨タイプ 温水マット床暖房(小根太なしタイプ)>



### 注意

**「コンクリート埋込工法床暖房」での施工は、メーカー標準施工としてはお奨めできません。**

コンクリートの水分や成分がフロアの品質を阻害する場合があります。  
 本方式によるトラブル、不具合については保証しかねますのでご注意ください。

### 注意事項

- 床暖パネルの施工については床暖房パネルメーカーの施工説明書をよく読み、正しく施工してください。
- 床暖パネルの段差、またパネルとダミー合板との段差は1mm以下にしてください。段差が大きいと床鳴りの原因となる場合があります。
- 天然木を基材に使用しておりますので、床暖房運転の際フロアの継ぎ目に隙間が出る場合があります。天然木の性質上、ある程度やむを得ないものですので、ご理解ください。
- 床暖房使用部分については、それ以外の部分との下地構造の違いによって歩行感が異なる場合があります。
- 床暖房の試運転は、接着剤の硬化養生のため施工終了後5日以上経過してから実施してください。

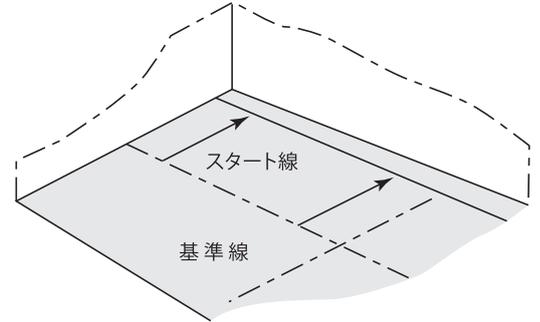
# 施工手順

## 1. 下地の点検・調整・清掃

- 十分に乾燥し、平滑であるか確認してください。
- スラブ面を清掃します。油污れは完全に拭き取り、ゴミやホコリを取り除きます。ゴミやホコリがあると接着不良を起こします。
- 床暖房の場合は、床暖房パネルを点検し、水漏れ等の破損が無いことを確認してください。

## 2. フロアの割り付け・墨出し

- 部屋の2方向の中央に墨出しをして、基準線を引いてください。
- 基準線にあわせて平行に、1列目のスタート線を墨出します。
- この場合、隅部の納まりや、廊下などの取り合いを考慮して、割り付けを行い、貼り始めのスタート線を決定してください。

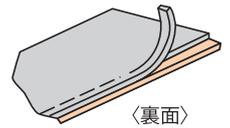


フロアの施工距離が長い場合(玄関～廊下・リビング)、湿気によりフロアが伸び、波打ち、突き上げ等が起こる場合があります。フロアの伸び対策として、リビング入口の見切り材及び敷居にシャクリ加工(カブセ見切り等)を施し、フロアとの隙間を十分確保してください。(縦継ぎは、最大10枚が目安です。)

## 3. 際根太の施工

※際根太は同梱しております。

- 際根太は、幅30mm～60mmにカットして使用してください。
- 際根太を設置する部分は、フロア裏面のクッション材を、際根太より少し大きい幅でカッターで剥がしてください。
- 下地面に接着剤を塗布し、際根太を置き、上から強く押さえます。際根太が下地になじまずに浮いている場合は、コンクリートネイルで固定するか、際根太の長さを短くして下地面になじませてください。

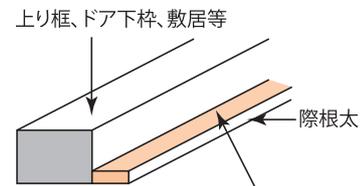


### 【際根太を使用する部位】

下記の部位、突き付け部には必ず際根太を使用してください。

際根太を入れないと隙間や段差、床鳴り等の原因となります。

部位：玄関框、床見切、掃出し、ドア下枠、サッシ、和室敷居等。



際根太上にも接着剤を塗布する

(床見切の場合は、際根太上には塗布しない)

### 【際根太を任意で使用する部位】

壁まわり等の巾木の下については、際根太を使用しなくても構いません。

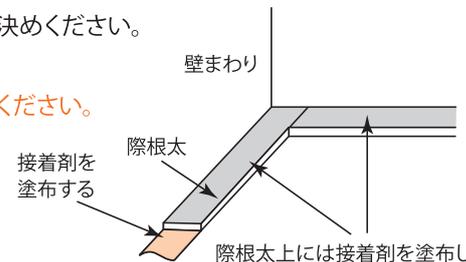
但し、下記内容をご確認の上、お施主様、ゼネコン様、施工業者様で協議の上、仕様をお決めください。

際根太を使用した場合は、家具等が傾くことがあります。

**注意** この場合、フロアの伸縮吸収のため、際根太とフロアを接着剤で固定しないでください。

際根太を使用しない場合は、家具等を置いたり、壁際を歩行した場合に、

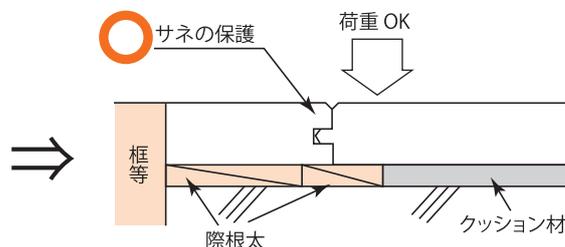
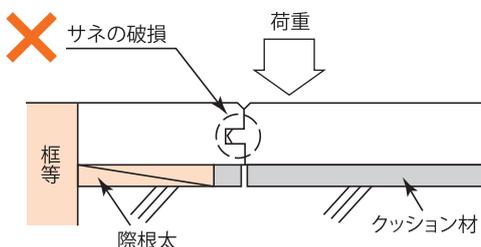
巾木の下に隙間が発生します。



### ※ 出入り口付近の際根太の施工

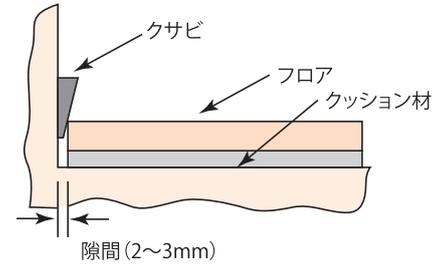
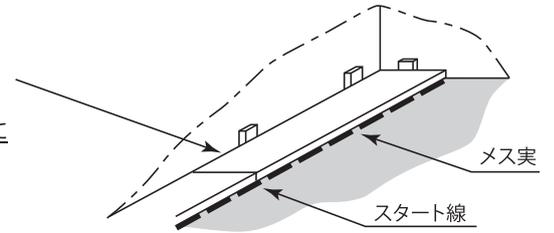
●下図のような場合は、サネの破損が生じないよう、際根太の幅を調整してください。

フロアの端部が、際根太から少し出る場合は、際根太の幅を長めに取ってください。



## 4. 貼り始め・仮並べ

- 貼り始めの板を隅の形に合わせて裁断します。オス実が直接壁に接する場合は、オス実を切り落とし、壁に向かって右側よりメス実側を手前にして、スタート線に沿って施工してください。
- 湿気によるフロアの伸びを考慮し、突き上げ防止のため壁際部はクサビをはさみ込み、巾木の厚みでかくれる程度の間隙(2~3mm)を設けてください。
- トイレ、洗面所、流し台の排水開口部やサッシ際などは結露水や湿気でフロアが腐朽、またシミが発生することがあります。防止のため切断面に防水処理をしてください。(シリコン充てん剤、コニシ(株)製:パスボンドQクリヤー色などを使用)
- 一列分の裁断加工したフロアを仮並べて、寸法、形状、割り振りバランスなどを確認します。



## 5. 接着剤の塗布

- 接着剤は必ず指定の直貼り床用接着剤をご使用いただき、釘は絶対に使用しないでください。

### 1 液ウレタン樹脂系木質防音床材用

- ・(株)オーシカ製:セレクトィ UR-145
- ・コニシ(株)製: KU928R(S/W)

ご注意 指定以外の接着剤を使用した場合、床鳴りや接着不良の原因となる場合があります。

- 接着剤は専用のクシ目ゴテで墨出しに沿って塗布してください。
- 接着剤の使用説明書をご一読し、正しく使用してください。
- スラブ面の状態によって増減しますが、500~800g/m<sup>2</sup>を目安にしてください。
- 一度にたくさん塗布せず、フロア1列分ずつ塗布してください。
- 接着剤がはみ出した場合や、フロアの表面を汚した場合は、すぐに乾いたウェスまたはシンナーを染み込ませたウェスで拭き取ってください。硬化すると取れません。(水拭きは不可)
- 上り框、敷居、ドア下枠等の突き付け部分は、際根太の上にも接着剤を塗布してください。
- 壁まわり等の突き付け部分以外の場所で際根太を使用する場合は、スラブ面のみの接着としてください。

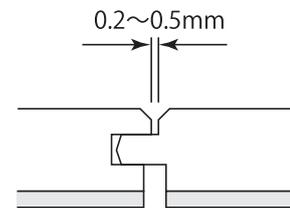
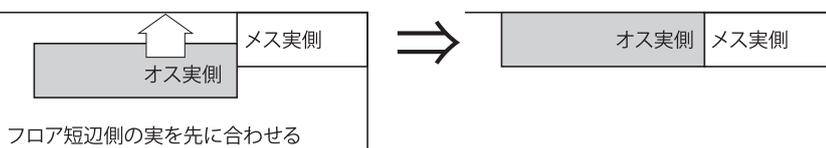


必ず専用のクシ目ゴテを使用してください。

## 6. 1列目のフロアの施工

- 1列目のフロアを基準に合わせて貼ります。
- 位置合わせの確認後、フロアを圧着します。
- 接着施工のため接着剤が硬化するまでは、動きますので、基準となる1枚目は動かないようにしっかり重しで固定してください。
- 1枚目を貼り終え少し時間をおき、フロアが動かなくなってから2枚目を施工すると2列目以降の作業がしやすくなります。
- 2枚目以降の施工は、1枚目のフロア短辺側のメス実に2枚目のオス実を乗せながら実を合わせ、基準線に沿って貼ります。(※1)
- フロア短辺ジョイント部の突き合せは、フロアの伸びを考慮し突き上がり防止のため、0.2mm程度の間隙を設けてください。  
絶対に足で蹴り込んだり、ゴムハンマーで叩き込まないでください。

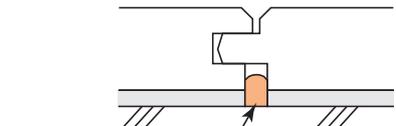
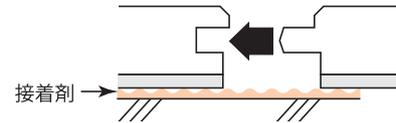
(※1)



きつく寄せすぎると床鳴り、突き上げや波打ち現象の原因となります。フロアのジョイント部は0.2mm程度の間隙を設けてください。

## 7. 2列目以降の施工

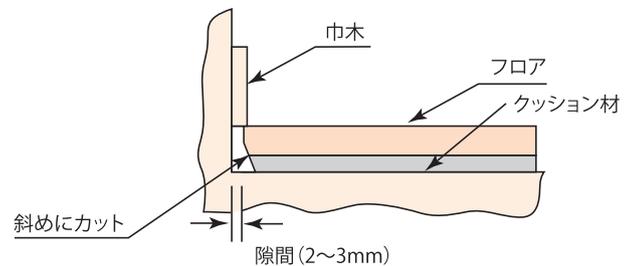
- 2列目からの施工も1列目と同様に行います。接着剤を塗布する前に必ず、仮納めをし、実の嵌合、納まりを確認してください。
- 壁際には隙間をあけるようにしてください。
- フロア短辺ジョイント部の突き合せは、突き上げ防止のため軽く当ててください。
- 下地の状態、製品の強さによって浮くような場合は重しにて圧着してください。



フロアを出来るだけ近くに置いて横ズラシを少なくし、接着剤がフロアのジョイント部に溜まらないように施工してください。接着剤がジョイント部に溜まったまま硬化すると、その部分だけ歩行感が硬くなります。また、フロアの伸縮を吸収出来ず、突き上げ、波打ちの原因となります。

## 8. 貼りじまいの施工

- 床材をはめ込む形に精密にカットし、納まりを確認します。
- 貼りはじめと同様に、突き付け部分等で際根太の当たるところは、裏面のクッション材をはがします。
- 壁際側は、斜めにカットしますと、はめ込みが楽できれいに納まります。
- 突き上げ防止のため壁際部は、巾木の厚みでかくれる程度の隙間を設けてください。
- 隙間確保のためのクサビは1日後に取り外してください。



## 9. 養生方法

- 施工後は、表面や溝部のごみを掃除機で吸い取り、必ず養生マットと養生テープを使用してフロア表面を保護してください。布製ガムテープや広巾クラフトテープ等は粘着力が強く、フロア表面を損傷する恐れがありますので使用しないでください。
- 養生テープをはがす場合は、ゆっくりとはがしてください。急激にはがすとフロア表面を損傷する恐れがあります。
- 養生マットの上から、ペンキや雨水等がかかるとフロアを変色、変質させる恐れがありますので、注意してください。
- 脚立や重量物を使用の際には、合板等の硬い材料でフロアを保護してください。
- 施工後は十分に換気を行ってください。閉め切ったままの状態では湿気が上がると、フロアの伸び・突き上げの原因となります。

## 10. 美装について

- 水洗いは厳禁です。洗いの際は濡れ雑巾を避け、乾いた雑巾やモップをご使用ください。汚れのひどい場所は、固く絞った雑巾をご使用ください。床鳴り、伸び、突き上げの原因となりますので、フロアに過剰な水分がかからないように注意してください。
- ワックス掛けの必要はありません。お客様の都合でワックス掛けをする場合は、リンレイ社ハイテクフローリングコートを使用してください。ワックス製品の取扱説明書や使用マニュアルを遵守してください。また、ワックスを直接床にまかないでください。

東洋テックス株式会社

本社 高松市勅使町258-1  
TEL : 087-867-7161(代)  
<http://www.toyotex.co.jp/>